

新学科設置計画について

特集1 座談会

学内だけでは得られない
地域とつながる貴重な体験

特集2 図書館紹介

知・美・動——。

3つの刺激で未来を拓く場所

My life

株式会社西日本フィナンシャルホールディングス

取締役監査等委員

伊東 知子様

20^{ハタチ}歳の原点

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか
若き日々の原点となるライフストーリー。



学生時代、1年時の体育祭にて(本人中列左から3番目)

大

学在学中は、部活漬けの日々でした。部活といっても

初心者の集まりでもあり、楽しく活動していました。元々、卓球部に所属していましたが、バレーボール部が存続の危機になった時は、バレーボール部にも所属し、後輩が入部してくるまで活動するなど、お助けマンでした。

大学の職員さんたちとも毎日一緒に卓球で汗を流し、お昼は生協の調理員さんに大盛にしてもらって食事し、大生全体が家族のような雰囲気でした。県庁入庁後、県の出先機関で当時の職員さんに会い、驚いたことがあります。

当時の職員さんは県職員でした。特に思い出深いのはかすみ祭と体育祭です。かすみ祭では1年・2年はクラス企画で出店。3年はかすみ祭実行委員会の副委員長として体育館での企画を担当しました。予算も少なく、本当に苦労しました。でも、実行委員みんなで分担して成功させたことはか

和カフェ「空とたね」オーナー

増永 和子 MASUNAGA KAZUKO

宮崎県宮崎市出身(宮崎西高校卒業)
1988年本学家政学部家政学科(食物専攻)卒業後、生活改良普及員として福岡県へ入庁し、2015年度で退庁。その後、アスパラガス栽培を開始、2019年に和カフェ「空とたね」を開業。2023年より母校にカフェ2号店をオープン。現在、同窓会筑紫海会理事、佐賀県農業士などを務める。

■ 思い出の本

コレット・ダウリング

『シンデレラコンプレックス』

驚きとともに女性の置かれた立場、女性である自分の生き方を客観的に考えることができました。誰かにすぎる生き方ではなく、「自分」を持って精神的にも経済的にも生きていきたいと思うようになりました。当時、秋枝先生(※)と話したことも生きるヒントだったように感じています(具体的には覚えていませんが)。後の、西日本新聞の連載はとても興味深く読みました。(※)秋枝蕭子 福岡女子大学名誉教授



空とたね 福岡女子大店

営業時間
月曜日～金曜日
11:30～14:45
水曜日は野菜販売あり



詳細はこちら▲

けがえない思い出ですし、今も仲良くしてもらって、頼りになる存在です。体育祭では、クラスで事前の練習までして挑んだバレーボールでしたが、惜敗。上位へは行けませんでした。ただ、文学部対家政学部で行われた騎馬戦では、家政学部が勝利しました。3年では、家政学部の大将となり、みんなに狙われるという恐怖を味わいました。みんなに守られ勝利しましたが…。

また、当時はどうやって物理の単位が取れるか悩んでいました。高校で物理を選択していなかったため、大学で初めて学んだのです。試験で、試験内容とは異なるけれども自分の勉強したことを書けるだけ答案用紙の裏まで書いて、単位をいただくことが出来ました。先生に感謝、感謝です。

将来の目標が定まらなかつたかは、栄養士資格取得のために行った小学校・自衛隊・保健所・病院での実習です。私自身、とにかくじつとしていない性格

だったので、栄養士は向いていないことを自覚しました。そのため、出張の多い生活改良普及員になろうと思いました。「生活改良普及員」は時代の流れとともに変革し、現在は「普及指導員」となっていますが、農業者の技術・経営・労働支援等を行うことが業務でした。農家の方々と共に過ごした27年間の県職員の経験が、現在の農業とカフェ・加工所の経営につながっています。

就職して初めての大きな仕事は、農業者と関係機関で実施した「のろ高原牧場まつり」でした(「伊都物語」という牛乳誕生の原点)。かすみ祭実行委員会の組織体制をそのまま活用し、事務局として関わりました。物事を企画立案して実行するという一連の流れは、かすみ祭で体得し、仕事でも大いに役立ち、現在にもつながっています。

できないことはない、どうしたらできるかを考えることが重要だと思っています。



FUKUOKA WOMEN'S
UNIVERSITY

公立大学法人

福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel.092-661-2411(代表) Fax.092-661-2420
http://www.fwu.ac.jp/



春宵感懷

中原 中也

雨が、あがつて、風が吹く。

雲が、流れる、月かくす。

みなさん、今夜は、春の宵。

なまあつたかい、風が吹く。

なんだか、深い、溜息が、

なんだかはるかな、幻想が、

湧くけど、それは、掴めない。

誰にも、それは、語れない。

誰にも、それは、語れない

ことだけれども、それこそが、

いのちだらうぢやないですか、

けれども、それは、示^あかせない…………

かくて、人間、ひとりびとり、

ここで感じて、顔見合せれば

につこり笑ふといふほどの

こととして、一生、過ぎるんですねえ

雨が、あがつて、風が吹く。

雲が、流れる、月かくす。

みなさん、今夜は、春の宵。

なまあつたかい、風が吹く。

なかはら ちゅうや

中原 中也 (1907～1937)

詩人。山口市湯田生まれ。小学校高学年より短歌を制作し、雑誌や新聞へ投稿。益々文学に熱中し、1924(大正13)年、京都での旧制中学時代に、富永太郎らと知り合い、詩人としての道を歩み始める。上京後、友人たちと同人誌『白痴群』を創刊。1934(昭和9)年には、第1詩集『山羊の歌』を出版。またフランス詩の翻訳も手がけ、訳詩集『ランボオ詩集』を刊行。自らまとめ、小林秀雄に託した第2詩集『在りし日の歌』は、没後友人たちの尽力で1938(昭和13)年に刊行された。

CONTENTS

03 新学科設置計画について

04-06 **特集1** 座談会

学内だけでは得られない
地域とつながる貴重な体験

07-09 **特集2** 図書館紹介

知・美・動——。
3つの刺激で未来を拓く場所

10 留学インタビュー ～From and To～

11-13 **My life**

株式会社西日本フィナンシャルホールディングス
取締役監査等委員

伊東 知子様

14 研究室紹介 国際教養学科 白新田 佳代子

15-16 世界歴史探究！
～日本や諸外国におけるデジタル性暴力に関する
加害・被害の一般化の歴史～
国際教養学科 朴 紅蓮

17-19 FWU TOPICS

20 成果報告

21 社会で羽ばたくなでしこたち
日鉄環境エネルギーソリューション株式会社
高山 紗季さん

22 退職者メッセージ／人事消息



福岡女子大学広報

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
MAGAZINE
No.123 SPRING 2025

地域連携センター
主任
白石 望

地域連携センター
副センター長
菊谷 雅之

国際教養学科1年
黒木 ひよりさん
聖心ウルスラ学園
高等学校出身

環境科学科3年
黒川 絢未さん
九州産業大学付属
九州高等学校出身

特集1
座談会

2011年4月の国際文理学部新設に伴い、従来の学内組織を統合する形で発
足した地域連携センター。さまざまなイベントやボランティアを通じて、地域の方
や社会への貢献を目指し、日々活動に取り組んでいます。

学内だけでは得られない
地域とつながる貴重な体験

学内を飛び出し、地域や企業、
自治体とつながる場所。

白石さん(以下白)：大学には『教育』『研
究』『社会貢献』の3つの使命があり、本学
では向井学長のもと「街化する福女大
キャンパス」を標榜し、地域社会の大学に
なるべく地域の方々や自治体・企業などさ
まざまな主体と協働連携しています。中
でも地域連携センターは、大学と学外をつ
なぐ窓口として、さまざまな地域貢献活
動を教職員・学生とともにを行っています。

センターには研究支援部門と地域交流
部門があり、研究支援部門では研究者で
ある教員の研究成果の公開や、企業等と
の共同研究をはじめとする産学連携活動
を通して社会貢献を行っています。また、
地域交流部門では、本学がある香住丘校
区をはじめ、東区にある校区と連携をし
て地域文化の発展や地域課題の解決のた
めにボランティア活動や、生涯学習カレッ
ジ、高校生向けの出前講義といった学外に
向けたプログラムを行っています。

今回は2名の学生にセンターでのボラン
ティア活動等についてお話を伺います。

新学科設置計画について (※1)

近年、グリーン(GX^(※2))及びデジタル(DX^(※3))を中心とした理工系分野の
人材不足が我が国の課題とされ、特に、大学等における理工系分野への女性
の入学者が少ないことが指摘されています。

本学では、こうした社会の動向を受け、新学科の設置を計画しています。その
内容について、新学科設置準備室の松永千晶室長に聞きました。

環境科学科准教授
新学科設置準備室長
松永千晶



Q 新しく設置される学科について教えてください。

2027年4月に、現在の「環境科学科」を改組し、新たに「環境理学科(仮称)」「生活情報工学科(仮称)」の設
置を計画しています。「国際教養学科」「食・健康学科」と合わせ、国際文理学部は4学科体制となります。

Q なぜ新学科を設置するのですか？

本学においても近年情報・通信分野の就職者が増加傾向にあることや、特に「環境科学科」においては高
度人材に求められる専門性に応じたカリキュラムの整備や将来像の提示が求められており、そうしたニーズ
に対応するものです。

Q 新学科ではどのような人材育成を目指しているのですか？

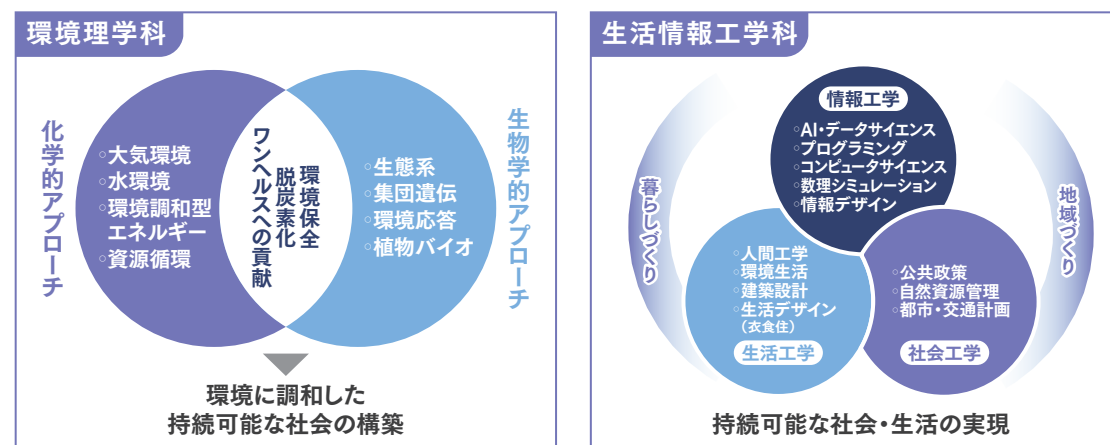
「環境理学科」では化学・生物学を中心とした自然科学の基礎を鍛え、GXによる地域・国際的な環境問
題に関わる人材を育成します。

「生活情報工学科」では生活者の視点から、生活工学、情報工学、社会工学を基礎として、DXによる地域
の社会課題に関わる人材を育成します。

Q 新学科の特徴は？

本学が強みとする文理統合教育、インターンシップやPBL(問題解決型学習／プロジェクト型学習)等
による実践演習を通じて、複雑な社会課題の解決に貢献できる力や、国内外の企業・大学・自治体との連携に
より、実社会で即戦力となる能力を身につけることができます。

●新学科の概念図



※1 設置計画は予定であり、内容は変更することがあります。 ※2 GX(グリーントランスフォーメーション):化石エネルギーを中心とした現在の産業構造・社会構造を、
クリーンエネルギー中心へ転換する取組のこと。 ※3 DX(デジタルトランスフォーメーション):デジタル技術によってビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えること。

本件に関するお問い合わせ先

福岡女子大学 新学科設置準備室

電話 092-661-2411 FAX 092-661-2420 Email gx-dx1@fwu.ac.jp

※最新情報は、随時ホームページ等でお知らせします。



世代を超えて地域と密着。多くの人の幸せにつながるイベントを実現。

白石：黒木さんは地域連携センターの学生委員として活動してもらっています。学生委員とは福岡女子大学の企画・運営に携わる学生のことです。学生委員は、学内の委員会・部会に所属し、教職員と一緒に大学運営の一端を担います。地域連携センターでは毎年5名前後の学生委員を受け入れて地域とのイベントの企画運営などを行っています。黒木さんには名島公民館で行ったシニア向けのスマホ活用講座に参加してもらいました。1年生なのでこれが最初の活動だったと思いますが、実際に活動してどうでしたか？

黒木さん（以下黒木）：私は司会進行と講座で使用するスライド作成を担当しましたが、高齢者の方が見やすい文字フォントや大きさを選んだり、アプリを簡単に見つけられるようアイコンの画像を差し込むなど、講座を受ける方々が安心して受講できるよう工夫しました。最初は世代が違う方々と楽しく過ごせるかという不安もありましたが、広い知識を持った高齢者の方々との交流を私自身も楽しませていただきました。

白石：家族と離れて暮らしているなど孤独になりがちな高齢者の方も多いと聞きます。このイベントによってSNSなどで社会や友人とつながるスキルを身につけられたら見守りにもなつて、多くの人を幸せに導くと思います。

実は身近に潜む犯罪から自分や家族、そして地域の人を守りたい。

黒木：環境に優しく宗像市の観光スポットを巡る「目指せCO₂ゼロ観光」というプロジェクトに参加しています。市役所の方にコンタクトをとったり宗像大社の方に話を聞いたり、何もかもが初めてで勉強になることばかりです。



右：ランドセル+αプロジェクト(左端が黒木さん)
左：学生防犯ボランティア団体表彰(右端が黒川さん)



のとして、防犯意識を高めないといけないと強く感じています。

白石：近隣の高校を対象にした高校生向けの護身術講座もありましたよね？

黒川：はい。実際に犯罪を目の当たりにしたときに、すぐに護身術を使うことは難しいと思いますが、こういったイベントで楽しんで学んでもらえたら、頭の片隅に残ることがあるのかなと思っています。また、防犯のチラシ配りをして印象的だったのが、受け取ってくれるのは大人よりも高校生や子どもが多かったことです。ですから、まずは若者世代から犯罪の恐ろしさを理解してもらって、大人に伝えていくというのも大切なことかなと感じました。

菊谷：活動を通して、福岡県警等から優秀な学生防犯ボランティア団体として表彰もされましたね。

黒川：授賞式の会場で、思ったよりも表彰される団体が多いことに驚きました。警察の方

はもちろんですが、多くの防犯団体があつて社会の犯罪から私たちを守ってくれているんだなと実感しました。TVにも取材をしていただいたので、東部地域大学連携の活動を多くのの人に知ってもらえていたら嬉しいのです。

活動に参加することで新しい自分発見。多くの学生たちにチャレンジしてほしい。

菊谷：地域連携センターのボランティア活動への参加は学生たちの自由なので、一度も参加をせずに卒業する人もいるかもしれませんが、多くの活動に参加している2人は、入学前からボランティア活動などに参加していたのですか？

黒川：私は全く参加したことがありませんでした。どちらかといえば一步を踏み出すのがなかなかできない方です。だけど福岡女子大学の学生ってボランティアに限らず、留学や学生委員などいろんな活動に参加している人が多いですよね。そんな周りに刺激を受けて「私も何かやってみようかな」と思ったのが参加のきっかけでした。

黒木：私は幼い頃から人と関わるのが好きで、小中学生の時からさまざまなボランティアに参加してきました。高校時代にはボランティア部に所属していたことも。大学に入つても続けたいと思っていました。

菊谷：きっかけは真逆なんですね！大学の活動を通して、これまでとは違う自分を発見できましたか？

黒木：私はボランティア活動をしていたと



いつても裏方の方が得意で、人前に出ることはあまり得意ではないと思っていました。だけど地域連携センターのイベントに参加するようになって、人前で話すことへの苦手意識がなくなってきました。積極性が身についたと思います。

黒川：地域連携センターの活動に参加することで、社会とつながることに喜びを感じるようになりました。大学生活だけでは関わることがない高齢者の方や子どもたちなど、多くの人の笑顔を見ると自分も社会の役に立てているんだなと嬉しくなります。

白石：地域でのボランティアへの参加は、まだ知らない自分の発見にもつながりますよね。また、これまで知らなかった地域の課題や魅力に気付くこともあります。地域連携センターでは、何か新しいことに挑戦したいと考える学生たちが気軽に参加できるイベントを多く用意しています。また一步を踏み出していない学生たちも2人のように積極的に参加してもらいたいのです。そして、地域社会とつながる喜びや学内だけでは出会えない人たちとの貴重な時間を楽しんでほしいです。

大学から学生、地域社会をつなぎ 街化する福女大キャンパスを目指す。

地域連携センター長
食・健康学科教授 片桐 義範



地域連携センターでは、さまざまな企業や自治体と連携して、学生がなかなか自力ではたどり着けないようなイベントや活動を紹介できるように取り組んでいます。学生生活の中で新しい挑戦をしたいけれどその術がわからない、そんな学生たちの一步を踏み出すきっかけになり、大きな成長へと導けるような場所になればと願っております。また、「街化する福女大キャンパス」を実現するために、地域の方々や企業、そして自治体の方にとっても気軽に相談してもらえるようなセンターを目指しています。

今後も積極的にイベントや活動を企画し、もっと多くの方々に本学の魅力を伝えていきたいと思っています。これからの福岡女子大学、そして地域連携センターにぜひご期待ください。



（※2）図書館内と講義棟への一般の方の入場は手続きが必要です。



▲美術館HP

明るく開放的な図書館棟に置かれた美術作品は、一般の方も鑑賞可能です。平日と土曜の開館時には自由にオープンスペースを散策していただき、思いがけないイメージの発見を是非お楽しみください。

実施しています。

毎年「春の企画展」を実施しており、2025年度で第9回となります。さらに新しい試みとして、2023年度からは学生による企画展示を実施しています。

主に卒業生や郷土に縁のある方々からの寄贈作品を500点以上収蔵し、そのカテゴリーは、油彩、彫刻、書、陶器と多岐にわたります。展示は、図書館棟のオープンスペースを核として、その他には図書館内、講義棟（※2）、地域連携センター内等に展開しており、大学生活の背景に自然に美術作品が存在する空間を作っています。

美術館で、福岡市のミュージアムウィークにも毎年参加しながら、地域に根差した美術館として成長を目指しています。



福岡女子大学美術館は、2016年に発足した大学附属の



活動の幅は年々広がりをみせています。



▲ラーニング・commonsHP

等、ランゲージ・カフェの活動の幅は年々広がりをみせています。学内外で各国の多様な文化を発信するイベントを開催する

は、ラーニング・commonsの中枢を担う、学生主体の活動です。英語・中国語・フランス語等の7カ国を超える複数言語のカフェが定期的に開催され、学生達がつどい、それぞれの言語や文化等について楽しみながら学んでいます。

多種多様なイベントが開催されています。

2024年度に創設10周年を迎えた「ランゲージ・カフェ（Language Cafe）」は、ラーニング・commonsの中枢を担う、学生主体の活動です。英語・中国語・フランス語等の7カ国を超える複数言語のカフェが定期的に開催され、学生達がつどい、それぞれの言語や文化等について楽しみながら学んでいます。



図書館の1階に併設されているラーニング・commonsは、複数の

図書館サービスについて

図書館では、学習・研究活動をサポートするための多様なサービスを提供しています。ここではその一部を紹介します。

学外からの文献取り寄せ（ILL）

本学学生・教職員は、図書館内やオンライン上で求める学術情報が見つからない場合、他館から取り寄せることが可能です。ご希望の場合は、図書館ホームページ「文献取り寄せ（ILL）ガイド」をご参照のうえお申し込みください。

オンライン図書館ガイダンスの開催

図書館の契約するデータベースの利用方法や学外からのアクセス方法、各種オンライン申請の方法等、図書館の提供するオンラインサービスについて、学内利用者向けのガイダンスを定期的に開催しています。

図書購入リクエスト

本学学生は、図書館に所蔵されていない紙の書籍や電子書籍について、購入リクエストを行うことが可能です。購入の可否については、毎月開催される図書館部門会議にて審議のうえ決定されます。図書館ホームページ「図書購入リクエスト（学生専用窓口）」をご参照のうえお申し込みください。

グループ学習室・リスニングブース・研究個室

図書館では学内利用者向けに、個人やグループで集中して学習することができる個室を複数提供しています。ご希望の場合は、館内サービスカウンターにて申請のうえご利用ください。

図書館 開館時間等

月～金曜日…9:00～20:00
土曜日…9:00～17:00
日曜日・祝日…閉館日

※夏季休暇等、開館時間が短縮となる場合がありますので詳細は図書館ホームページにてご確認ください。

図書館HPはコチラ



学外の皆様のご利用

学外の皆様も本学図書館を利用することが可能です。図書館ホームページ「利用案内」をご参照のうえぜひご利用ください。

「知（図書館）」と「美（美術館）」と「動（ラーニング・commons）」の織りなす、アカデミックな刺激あふれる空間にぜひ一度お越しください。

（※1）森崎和江文庫のご利用には、別途利用申請が必要です。

吹き抜け構造の開放感のある建築デザインが特徴的な福岡女子大学附属図書館は、学生や教員が気軽に足を運ぶことができるよう、講義棟と研究棟の間に位置しています。福岡県産の杉の木に覆われた波打つような形の天井、木製の書架を照らす暖色系のライトや複数設置された天窓から差し込む日の光等があいまって、まるで木漏れ日の落ちる森の中にいるかのような、柔らかな印象を与える空間となっています。

まさに「本の森」とでも言うべき図書館には、約21万冊の蔵書が収められています。「森崎和江文庫（※1）や「村上祥子料理研究資料文庫」等、本学卒業生の蔵書や研究資料をまとめた貴重なコレクションも公開されており、学内外の多くの方々に活用いただいています。また紙媒体の資料だけでなく、本学学生・教員向けに電子ジャーナルや電子ブック等のオンラインコンテンツが多数提供されている他、それらのコンテンツに学外からアクセスすることができる環境も整備されています。



吹き抜け構造の開放感のある建築

知・美・動――。

3つの刺激で未来を拓く場所



高木 咲羽さん

国際教養学科3年/
長崎県立
長崎北高等学校出身

2024.8～2024.12

アイスランド大学(アイスランド)



Q 留学をしようと思った理由は?

高校生の頃から英語の勉強が好きで、海外留学はずっと憧れでした。入学してからその気持ちは変わらず、短期プログラムで他の国に行った際に、もっと長く他の国で生活してみたい、現地で英語を使って勉強してみたいと思い、留学を決めました。

Q 留学した大学を選んだ理由は?

ヨーロッパの歴史に興味があり、興味がある分野について幅広く英語で開講される授業があったから

です。また、アイスランド大学には日本語学科があり、日本が好きなの他の国の人と関わる機会が多いのではないかと、他の国の人から見た日本について知ることができるのではないかと感じたことも決め手です。

Q 留学中は、どのようなことを勉強した?

アイスランドを含めたヨーロッパの歴史や文化について学びました。福女大の授業で学んでいた地域に加え、アイスランドについて初めて学び、新しい視点を得ることができました。特にアイスランドのキリスト教やエルフについてなど、今まで知識がなかったことを英語で学ぶのは難しいこともありましたが、現地で、現地の人の話を聞きながら学習を進められるという、留学中にしかできない方法で学ぶことができ、とても楽しかったです。

Q 面白かったこと、興味が湧いたことは?

アイスランド出身の友達、自国に対する考え方がとても面白いと感じました。アイスランドはとても小さな国であるため、周りの人は小さい頃からの知り合いばかりであり、隣にいる知らない人も誰かと

繋がっているため犯罪率が少ないという点、厳しい寒さはとても嫌いだけれど、それがアイスランドだからとても好きだという点など、他の国では感じられないものがあるのだと思い興味深かったです。

Q 日本と違いを感じる点は?

日本とアイスランドでは、気候や文化の全てが違いましたが、一番違いを感じた点は、レストランなどでのサービスです。アイスランドではフレンドリーでカジュアルなホスピタリティが好まれ、まるで友達のように接してくれることで、温かく受け入れてもらっているように感じました。

Q 将来の夢は?

自分の好きなことを仕事にもできたらと考えているので、英語を使用する仕事や、旅行関係の仕事に就きたいです。また、私が大学生活を通して経験してきたこと、留学中に身につけた新しい視点が評価され、貢献できるような場所で活躍したいです。

留学を経験した学生や留学生にインタビューしました。

留学インタビュー

~From and To~

タン ブイ ウェイ
TAN PHUI WEIさん国際教養学科1年
(マレーシア
クアラランブール出身)

2024～

2024年から学部留学生として在籍



Q 日本に興味を持ったきっかけは?

『あたしんち』や『クレヨンしんちゃん』などの日本のアニメが大きなきっかけです。また、高校卒業後、進路に迷っていたときに日本食レストランでアルバイトを始め、多くの日本人観光客と接する機会がありました。その中で、日本人の礼儀正しさと優しさに触れ、日本語を学んで言葉の壁なく会話したいという気持ちが強くなるだけでなく、日本語の美しい響きや言葉の豊かさにも魅了され、留学を決意しました。

Q 福岡女子大学を選んだ理由は?

帝京マレーシア日本語学院の先生に相談した際、福女大を知りました。国際的な視点を持つための深い教養を求めている私は、1年目に幅広い教養を身につけ、2年目から自分に合ったカリキュラムを組み立てる国際教養学科の学びのスタイルが理想的だと感じたためです。

また、留学生として4年間寮に住み、日本人学生が1年ごとに変わるため、毎年新しい学生と交

流できる点も非常に魅力的に思いました。さらに、福女大には多くの留学生も在籍しており、その中でWJCというプログラムでさまざまな国から来た短期交換留学生との会話で、英語力を維持しながら国際的な交流を深めることができます。こうした経験や交流が得られることも理由の一つです。

Q 今どのようなことを勉強している?

現在1年生で、来年度から専攻を選ぶ予定です。そのため、さまざまな授業を受けながら、自分の興味や適性を模索しています。特に力を入れているのは日本語力の向上で、ACJという日本語の授業を履修しています。授業を通じて、少しずつ上達している実感があります。

今学期は、キャリア形成論や言語コミュニケーション論、包摂社会と人権といった授業も履修しています。これらの授業を通して、自分に合う仕事を見つけるための力や、言語学への関心を深めることができている。

Q 最近勉強したことで面白かったこと、興味が湧いたことは?

韓国語と日本語学の授業です。韓国語は初級者ですが、新しい言語を覚える楽しさを感じています。元々日本語が好きで勉強してきたのですが、この授業を通して、日本語をさらに遠くから客観的に見る力を養うことができ、日本語への関心がさらに広がりました。

Q 日本と母国で違いを感じる点は?

一番大きな違いは、接客です。日本では接客が非常に丁寧で、お客様第一という印象が強い一方で、マレーシアでは、店員と客が対等な関係にあるように感じられ、接客態度も比較的気楽です。例えば、コンビニでは店員同士で会話をしながらレジを打つ風景が見られます。

また、日本人は直接的な言い方を避けることが多いと感じます。留学生として会話する際に、相手に気を遣う場面が多く、ストレスに感じることもあります。それでも、日本の街の綺麗さと清潔さには感動しています。そして、日本の歩道は整備されていて歩きやすい点に心惹かれています。その他にも、24時間営業のコンビニや発達した公共交通機関のおかげで、日本での生活の便利さも実感しています。車がないと移動が不便なマレーシアとは、ここが大きく違うと感じます。

Q 将来の夢は?

まだ具体的に決まっていますが、日本語教育やマレーシアの食品・製品を日本に紹介するなどの仕事を通じて、日本とマレーシアの架け橋になりたいと考えています。そのために、福女大での学びや経験を通じて、視野を広げ、自分に最も適した進路を見つけたいです。特に、日本語教育を深く学ぶことで、言葉の壁を越えたコミュニケーションを支援し、文化交流に貢献できる人になりたいです。

学生委員の活動について

図書館や美術館の運営には「学生委員」が参画し、本学学生や教職員、地域の皆様にとってより魅力あふれる場所に変えるべく、様々な活動を行っています。今後の学生委員の活躍にぜひご期待ください!

Student Voice

国際教養学科3年
塚本 日向子さん
(図書館部門 学生委員)

2023年12月～2024年3月の期間、装丁がポップで可愛い本や近年話題になった本等を集め、図書館1階にて「Books meet you」と題する企画展示を開催しました。

「読書に興味はあるが、手始めにどんな本を読めばいいかわからない」という悩みを持つ友人が多かったため、そのような学生が本を手取るきっかけになればとの思いでこの企画を立案しました。

展示場所や選書にこだわった結果、多くの学生が展示を見に来てくれたため、とても手応えを感じました。一方で、企画展示に関心を持たない学生も多くいるように見受けられ、読書の魅力を限定的にしか伝えることができなかったように感じました。学生委員の活動を通じ、読書や本の魅力を広めたいというは大変難しいことだと痛感しました。



教職員インタビューの書籍

ここで紹介されている書籍は、本学の図書館で読むことができます。学生や高校生の皆さんにも読みやすい内容のものになっていますので、ぜひ手に取ってみてください。

国際教養学科 准教授 近藤 洋平

『論理的思考とは何か』 渡邊 雅子著 岩波書店



文章の構成に悩んだことはありませんか?「論理的に書きなさい」と言われたことはありませんか?そして、わたしたちが書いた文章は、異なる文化圏に暮らす人たちにどのように映るのでしょうか?

本書は、はじめに論理学、レトリック(修辞学)、科学そして哲学における推論の形式とその目的を紹介し、続いて、アメリカ、フランス、イランそして日本の初等・中等教育における作文形式を提示し、各国において求められている文章の構成が異なること、そしてその構成の違いは思考法の違いに基づいていることを、平易な表現で解説しています。本書を通読することで、読者は目的の領域(経済的、政治的、法技術的、社会的)に関わる思考法と、それに対応する表現方法を理解することができます。本書で紹介されている各表現方法の技術は、大学におけるレポート作成(!)だけでなく、広く一般社会における文章作成と読解の際に参考となるでしょう。

環境科学科 講師 神屋 郁子

『小悪魔女子大生のサーバエンジニア日記 —— インターネットやサーバのしくみが楽しくわかる』
aico/株式会社ディレクターズ著 村井 純監修 技術評論社

皆さんは、普段使っているインターネットがどのようにデータを運び、どのように動いていると思いますか?Webやメールは、実はどこかにある特別なコンピュータ(サーバ)が動いていることで成り立っています。その「サーバ」がどんな仕組みで動き、どのように管理されているか知っていますか?

この本は、皆さんが普段何気なく使っているインターネットやサーバの仕組みなどを解説しています。技術書という専門用語が多く、難しいイメージを持つかもしれませんが、この本の著者は文系女子大生。皆さんと同じ目線で、日常生活と関連づけながら楽しく解説してくれます。インターネットの仕組みを知りたい人や、ITに興味はあるけれど何から始めればいいのかわからない人には是非おすすめしたい一冊です。

食・健康学科 講師 笠原 優子

『楽園のカンヴァス』 原田 マハ著 新潮社



好きな絵画や美術館がありますか?私は印象派の作品に心惹かれ、地元の大原美術館がきっかけで、その魅力に目覚めました。

大原美術館に勤める早川織江は、巨匠アンリ・ルソーの名作「夢」を借りるための交渉人として、名門美術館MoMAのチーフ・キュレーター、ティム・ブラウンから大抜擢されます。ルソーの研究者である織江とティムは、かつてルソーとピカソの秘密を巡って競ったライバル同士でもありました。

ルソーとピカソがカンヴァスに込めた秘密とは何か。絵画は平面ですが、その奥には画家の葛藤、情熱、恋愛、友情、そして尊敬など、私たちと同じように人生という海が波打っていることを感じます。最後に、まるで「夢をみた」かのような心地よい感覚にさせてくれる本です。

教務企画センター 深堀 麻衣

『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった』 岸田 奈美著 小学館



岸田奈美さんのエッセイ『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった』は、ダウン症の弟や車椅子の母との日常をユーモアたっぷりに描きながらも、家族への深い愛情が伝わる一冊です。

岸田さんならではの軽やかな語り口で、困難な状況を「ただの苦労」ではなく「個性」として受け入れ、その家族だからこそ味わえる感動や喜びを大切に作る姿勢に元気をもらえます。また、「家族」というテーマを特別視せず、誰もが共感できる形で描かれており、普段意識しない家族の存在を少し愛おしく感じられるのも、この本の魅力です。NHKでドラマ化され話題となった本作、気軽に読める内容ですので、忙しい日々の中で家族を見つめ直すきっかけとして、ぜひ手に取ってみてください。



今しかない時間を大切に、
いろんなことに
チャレンジしてください。

人見知りで消極的だった
子ども時代。転校のたび、
だんだん世渡り上手に。

——どんな子ども時代でしたか？

子どもの頃はとても人見知りが激しかったです。幼稚園には2年間通いましたが、最初の1年間は毎日行きたくない！」と泣き叫んでは、親から引っぱられていたような子どもでした。我が家は転勤族で、私は生まれは大阪ですが1歳くらいで福岡に来て、小学校3年生の時に下関、中学1年からは門司、と転校が多かったです。転校のたびにだんだんと人見知りもなくなってきた、すぐに新しい学校に馴染めるようになってきました。少しずつ世渡り上手になってきたのかな、と思います(笑)。

——その頃の夢を教えてください。

当時はアナウンサーになりたいと思っていました。人見知りが何を言っているんだという感じでしょうか？親戚の集まりでもボツンと一人で遊ぶような子どもだったので「知子ちゃんはおとなしいから無理だよ！」と言われていました。でも小学校では放送委員会に入ったりして、結構長いことアナウンサーを夢見ていました。

——その頃に夢になっていた文学や美術、音楽、趣味などありますか？

小学校では放送委員会、中学ではバドミ



中学校入学時。住んでいた社宅前で。

ントン、高校時代は水泳部のマネージャーをしていましたが、夢中になっていたというよりは、その時々を楽しんでいた記憶です。当時は気付いていませんでしたが、大人になってしまつてからより学生時代の方が感性が鋭いし吸収もしやすいと思うので、もっと何かに夢中になっていればよかったなと今になって思います。

——学生時代にやっておけばよかったことはありますか？

先ほどの『何かに熱中する』ということもそうですが、もつとフリーにいろいろな国や場所に行つておけばよかったなと思います。大学時代にユースホステルクラブというサークルに入っていたのですが、そこでは小学生と一緒にキャンプに行ったり、ユースホステルのヘルパーとして宿泊者の食事を作ったりなどさまざまな経験をしました。ただ実際、

自分自身では言葉も話せないしお金もないし……と積極的に動くことがなかったのですが、今思えば海外のユースホステルを渡り歩くなどの経験をしておけばよかったです。失敗を恐れて動かないのはもったいない。違う景色や文化に触れることで、きっと視野も広がっただろうなと思っています。

それまで考えたこともなかった
銀行への就職。仕事にどんな
のめり込んでいく。

——今の職業を選んだ理由を教えてください。

大学は理学部の数学科に所属していて、プログラミングの授業が好きだったのでIT



株式会社
西日本フィナンシャルホールディングス
取締役監査等委員
伊東 知子様

1988年九州大学理学部数学科卒業後、新卒で株式会社西日本銀行(現西日本シティ銀行)へ入社。希望していたシステム部へ配属され、銀行システムの設計・開発を12年間担当。その後、いくつかの本部部署を経験し、2013年に支店長、その後、3つの部署の部長を経験し、2022年に取締役監査等委員に就任。2024年からは持株会社である西日本フィナンシャルホールディングスの取締役監査等委員を務めている。

INTERVIEWER



国際教養学科1年/
東海大学付属福岡高等学校出身
いいだ みさと
飯田 三智さん

系の企業に就職したいと考えていました。けれど当時、福岡でそういった仕事は少なかったのでしょうかと悩んでいたところ、ゼミの先輩から「銀行のシステム部で働くという選択もあるよ」とアドバイスをいただきました。まさかプログラミングの技術を銀行で活かせるとは思ってなかった目で目から鱗でした。すぐに西日本銀行(現…西日本シティ銀行)への就職を希望しました。

——銀行で働きたかったというわけではな
いんですね！

そうなんです。銀行といえばお金を扱うところというイメージしかなかったのですが、アドバイスしてくれた先輩には本当に感謝です。入社してからは10年ほどシステム部に所属し、銀行のシステムのプログラミングをしていました。10年目以降から他の部署も経験してみたいと思ひ会社で希望を提出。そこから総合企画部、審査部など、他の部署も経験させてもらい、銀行で働くことにより魅力を感じるようになりました。仕事にどんなのめり込んでいったものこの時代からです。

——支店長も経験されていますよね。

そうですね、そこで初めて部下を持ち、チームとして考えて働くことを学びました。支店長の経験もですが、どの部署も最初は初めての経験ばかり。ちょうど『これからは女性がより活躍する時代だ!』という

時で、審査部への異動は女性第一号だったんです。先輩方に教えてもらいながら1から勉強してとにかく毎日必死でした。とても大変でしたが、トータルで見るととても楽しくやりのある日々でした。

仕事だけ頑張ってもダメ。
自分の時間も充実させ、
人生2周目へ進みたい。

――仕事とプライベートの両立で意識していることはありますか？

今は働き方改革などといわれていますが、当時はそんなことは全くなくて24時間仕事しています！という時代もありまし



た。でもやっぱり心身が疲れていると良いパフォーマンスは出せないですね。仕事だけにのめり込むのではなく、できるだけプライベートも充実させるように友人に会うなどの時間をとっています。

――これからの夢を教えてください。

私は今年で還暦です。もう人生1周回ったなと感じています。これまでずっと銀行で過ごしてきた、現在は役員になり充実した日々を過ごさせてもらっていることには感謝しかありません。若い頃は自分を中心に考えていましたが、部下を持つようになった時代から彼女らの成長を見守る時間も幸せだなと思うようになりました。具体的にはまだ模索中ですが、これからの人生2周目は社会に恩返しをしたいなと思っています。

失敗も成長につながる良い経験。
恐れずにチャレンジする精神を
大切に。

――好きな言葉を教えてください。

『柳のようにしなやかに』という言葉はいつも心の中にありますね。風などでふんわり揺れるんだけど芯はある。自分とは違う意見も取り入れながら、だけど自身の中にある信念は守ること。生きているといういろいろな意見に心が揺らぐこともあるけど、自分自身をしつかりと持つて生きていけるよう、



大切にしている言葉というか姿勢です。

――最後に大学生に向けてメッセージをお願いします。

学生時代はあつという間です。私は今になってあれもこれもしておけばよかったと思うことばかりなので、ぜひ学生時代こそいろいろなことにチャレンジしてみてください。失敗しても、それは成長につながる良い経験だと思います。また、私にとって学生時代の友人は一生の宝物です。社会人になつて違う道に進んでも、会うといつでも当時に戻って笑い合える。そんな豊かな時間を過ごせる友人をぜひ大切にしてくださいね！

経済・産業構造の変化から環境問題を考える

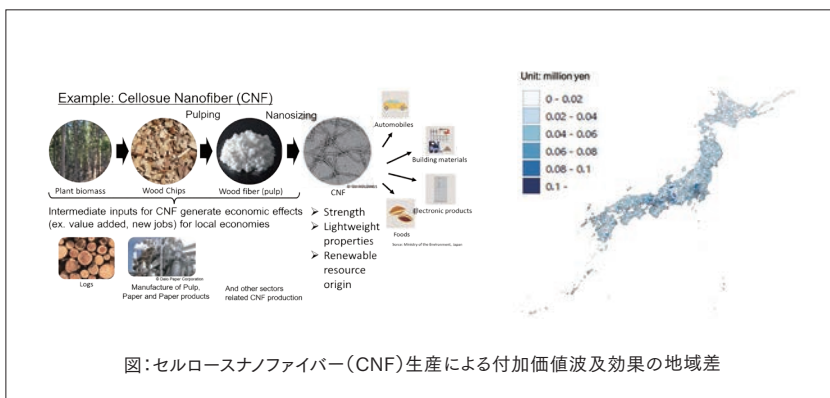
これまで私は産業構造の変化と環境負荷（特に温室効果ガス）の関係について、産業連関分析を用いて研究を行ってきました。先進国を中心に進むサービス産業の比重が高まるサービス経済化は国内の生産活動に由来する温室効果ガスの排出を削減する効果を持ちますが、一方でサービス産業は物質強度・排出強度の高い財（電子機器、エネルギーなど）の需要が大きいという点で再物質化の特徴を持っています。途上国では経済成長に伴う工業化により国内の温室効果ガスの排出が増大する傾向にありますが、生産された製品はすべて途上国内で消費されるのではなく一部が先進国へと輸出されます。これは先進国のサービス経済化が進み国内の工業の比重が低下したことで、工業製品の需要を途上国の輸入で補完していると考えられます。こうした国内外の産業構造の変化に伴い各国世界の温室効果ガスの排出構造がどのように変化したかを分析しています¹⁾。

また、環境の分野にとどまらず、現在は産業構造の変化のダイナミクスの中心を担う情報通信関連産業に強い関心を持つており、研究に取り組んでいます²⁾。さらに最近では、新素材・新技術を社会実装した時の導入効果として経済・社会的影響の推計にも挑戦しています。新素材・新技術は環境問題の解決

に有用であつても製造時のコストの高さから社会実装が難しい場合があります。地域経済へもたらす経済効果（付加価値や新規雇用など）を推計することで、新素材・新技術の導入効果を適切に評価する方法を検討しています（図参照）³⁾。

続いて、私の担当するゼミについて紹介ですが、大きなテーマは国際貿易となっており、3年次前半では国際貿易や海外直接投資など国際経済学に関連する文献を講読します。今年度は新型コロナウイルスによる日本の貿易への影響に関心を持つ学生が多かったので、関連する文献を講読しました。3年次後半には回帰分析や産業連関分析などデータ分析の手法について学び、グループで研究テーマを立て習得した手法を用いた実践的な研究活動を行います。4年次のゼミは卒業研究が中心となり、テーマは学生の主体性を尊重し、各人の興味関心を優先しています。これまでの研究テーマを一部紹介すると、

「付加価値貿易からみた日本の付加価値分配構造に関する考察」、「九州のスマート農業化における経済波及効果」、「対日直接投資における立地選択の決定要因の検討―都道府県を対象とした分析―」、「ふるさと納税制度による都市部の自治体の税収減少の実態と住民サービスへの影響―東京23区を例に―」などがあり、学生の関心の幅広さが伺えるか



と思います。現在ゼミでは年に1回程度、他大学との合同ゼミを行っています。3年生はグループ研究の成果を、4年生は卒業研究の成果を発表し、異なる専門分野を持つ学生と研究交流を経験しています。

<参考文献>

- 1) Shironitta K., Okamoto S., Kagawa S. (2019): Environmental Economics and Policy Studies, 21 (4), 533-554
- 2) 小野崎彩子, 白新田佳代子, 時任翔平, 加河茂美, 篠崎彰彦 (2023): InfoCom Economic Study Discussion Paper, No.23
- 3) Shironitta K., Oshita Y., Hienuki S., Kanematsu Y., Kikuchi Y. (2024): Ecobalance2024, Sendai, Japan.



国際教養学科

准教授 白新田 佳代子

九州大学経済学部卒業後、同大学大学院経済学府経済システム専攻修了、博士（経済学）。2019年4月より福岡女子大学に講師として着任。産業連関分析を用いて、国や世界の経済・産業構造の変化が地球温暖化をはじめとした環境問題に与える影響について研究しています。

My life - 過去の記事 -

121号
2024.3

富士通株式会社
人材採用センター シニアマネージャー

田中 雄輝様

122号
2024.9

トヨタ自動車九州株式会社
性能開発部
感性性能開発室 材料技術G

筒井 友梨恵様

117号
2022.3

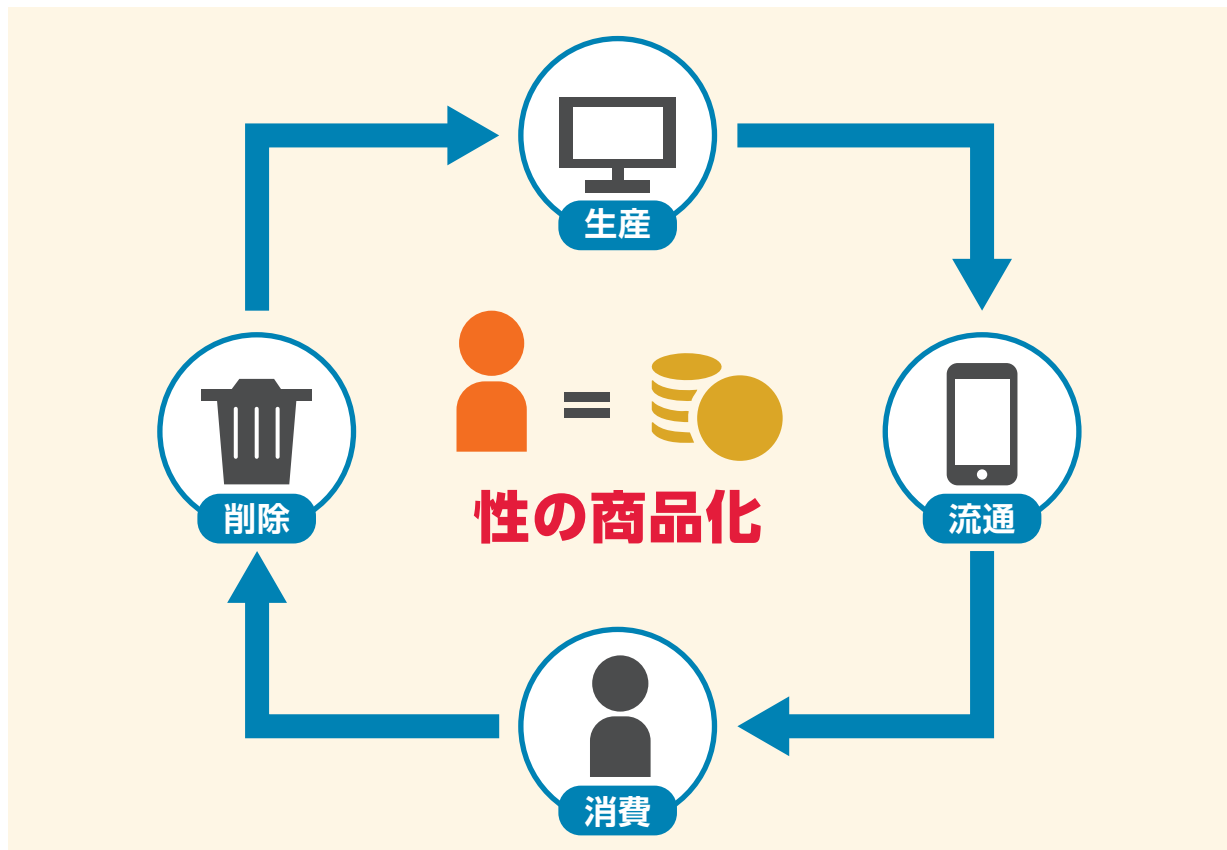
日本航空株式会社
地域事業本部 地域アンバサダー室
JALふるさとアンバサダー
リードキャビンアテンダント

坂井 由起子様

120号
2023.9

株式会社 明治 西日本支社
企画部 食育・エリアマーケティング課
管理栄養士

小坂 真由美様



被害者は一般化している。その一方で、誰でもどこでもいつでも被害に遭う可能性も高くなる。私もいつか、どこかで被害に遭うのではないかと、「直接」被害に遭っていない人も心配し、怯え、一部の行動ができなくなったり、自分の行動を制限してしまう。すなわち、被害・被害者も一般化していく。

現在AI、ビッグデータなどが様々な側面で活用されている。人々がよく利用している各種のプラットフォームはユーザーたちが、アクセスする、クリックする、観る、レビューを書くことで、ユーザーのビッグデータが取れ、そこからユーザーのニーズを把握し、ユーザーたちが必要とする商品・サービスを提供して、より多くのユーザーを集めて利益を出す。海外にある多くの違法ポルノサイトもこのようなプラットフォームと同じ仕組みである。このようなサイトでは匿名で被害画像記録のアップロード・ダウンロードができるだけではなく、レビューを書く・見ることによってユーザーの間で共感が生まれる。それで、より多くの性的画像記録が蓄積されより多くのユーザーが集まり、観る・ダウンロードすることや広告で収入が増え膨大な利益を得る。また、利益があるゆえに被害者からの削除要請になかなか応じない。

おわりに

デジタル性暴力の産業化をなくすためには、消費をしないことが重要である。しかし、消費している側は被害画像記録がどのように作られているのかに関して目を逸ら

PROFILE [執筆者プロフィール]



ボク コウレン
国際教養学科
准教授 朴 紅蓮

専門は社会学(ジェンダー学)で、主に中国をフィールドにして、女性の労働、育児期女性のワーク・ライフ・バランスについて研究している。近年ではデジタル性暴力被害者の支援活動にかかわり、日中韓の比較研究も行っている。

して、自分は加害者ではないと思いついでいる。デジタル性暴力の根底にはそれを可能とする社会的・文化的構造がある。中国、韓国、台湾などの多くの国や地域では政府がデジタル性暴力の被害者支援に乗り出している。デジタル性暴力には国境がない。特に、オンライン上に拡散されている被害画像記録の完全な削除は大変難しい。今日のデジタル性暴力は一つの国、一つの地域だけの問題ではない。デジタル性暴力に対抗するためには、国際連携が不可欠となる。

世界歴史探究!

近・現代史のすきまを埋めよう

～日本や諸外国における
デジタル性暴力に関する
加害・被害の一般化の歴史～

朴 紅蓮＝文

はじめに

近年、第4次産業革命と呼ばれるデジタル技術の発達によって様々な分野でデジタル革命が起きている。デジタル技術の飛躍的発達には人々の生活に便利さをもたらしているとも思われるが実はその光の影には様々な暴力が潜んでいる。その中でも近年デジタル性暴力は深刻化・多様化・低年齢化している。技術の発展にともなってデジタル性暴力の加害の手法は巧妙化しており常に変化

しているため、その加害・被害の実態像を把握するのは困難である。これはまたデジタル性暴力における加害・被害をより一般化していく。本稿では、比較的新しい歴史ではあるが近年、そして今現在も進行しているデジタル性暴力の一般化の流れを紹介する。

デジタル性暴力とは

今まで日本では児童ポルノ、盗撮、リベンジポルノ、AV出演被害などの側面からデ

ジタル性暴力について断片的に語られていたとも言える。日本でデジタル性暴力について被害者支援を行っている「デジタル性暴力被害者支援センター」では、デジタル性暴力をデジタル機器や情報通信技術(ICT)を用いた性暴力のことだと定義している。そのようなデジタル性暴力には性的な盗撮、児童ポルノ、リベンジポルノ、アダルトビデオの他、性的同意なしに行われる①撮影や頒布をする、②頒布することを脅しに使う、③性的な画像等を保存しつづける、④フェイクポルノを作るなどの行為がある。

諸外国ではサイバー性暴力(Cyber sexual violence)、オンライン・ハラスメント(Online harassment)、サイバー・ストーキング(Cyberstalking)、セクストーキング(Sextortion)、テクノロジーによる性的侵害(Technology-enabled sexual aggression)、デジタル性暴力など多様な用語が使われているが、その背景には各国が置かれている社会的・文化的状況の違いによるデジタル性暴力の異なる様子がある。このように世界各国で使われている用語や状況の違いはあるもののデジタル技術の発達によって加害・被害が一般化されている共通点はあるとも言える。

デジタル性暴力における 加害・被害の一般化

デジタル性暴力における、被害画像記録の生産、流通、消費(削除)は一つの産業になっており、その過程で被害者、多くの場合

女性は一人的人間ではなく、モノ・商品として扱われ消費される。デジタル技術が発達する前に、被害画像記録の生産、流通、消費には行う者や空間によって明確な境界があったとも言える。つまり、誰でも制作できるものではなくプロが作るものであり、一定のルートを通じて流通・消費されている。しかし、1980年代のホームビデオ、1990年代のデジタルカメラやインターネット、2010年代のスマートフォンの普及にともなってその生産、流通、消費の境界が曖昧になり、誰でもどこでもいつでも作れ、観られるようになった。また、被害画像記録の削除もその産業内に組み込まれている場合もある。

ここに、SNSやチャットなどが加わると加害者はSNSを通じて被害者との間に信頼関係を築いた後、被害者あるいは第三者の写真や動画を撮影して送るようになり、その後、その写真や動画で更に性的画像記録、性交やお金を要求したり、写真や動画をポルノサイトなどにアップしたりする。また、被害者が送らなくてもSNSのプロフィール写真などでフェイクポルノを作って拡散することもある。ここで、被害者はSNSに自分のごく普通の写真をアップしただけでデジタル性暴力の被害者になってしまう。

このように、誰でもどこでもいつでも作れる、アップロード・ダウンロードできる、見られるということは、誰でも簡単に加害者になれること、性的搾取に誰でも容易に加担できることを意味する。すなわち、加害・加

19

18

17

2

11月

16

15

14

13

12

11

10

10月

9

8

7

6

9月

5

4

3

2

8月

2

1

2024

7月

15 2024.10.26 - 10.27

第71回かすみ祭

一人ひとりが輝けるようにとの願いを込め、「twinkle」のテーマのもと2日間にわたってかすみ祭(学園祭)を開催しました。ステージ発表や趣向を凝らした模擬店でにぎわい、2日間で延べ1,800名を超える学生・来場者が訪れました。かすみ祭をきっかけに初めて福岡女子大学を知ったという方もいました。本学の学生同士だけではなく、近隣の高校や地域の方との交流も広がり、充実した2日間となりました。

16 2024.10.26 - 10.27

「ランドセルランド」に子ども向け体験ブースを出展

九州産業大学造形短期大学部とNPO法人が主催する中古ランドセルの譲渡会「ランドセルランド」に遠賀信用金庫と連携して子ども向け体験ブースを出展しました。本イベントは、不要になったランドセルを必要とする子どもたちに楽しい気持ちで帰ってもらおうと企画されたものです。合同ブースでは、環境に優しい古紙を活用したエコバッグづくりと1億円の模擬紙幣を活用した重さ当てゲームを子どもたちに体験してもらいました。



17 2024.11.09

実践交流会「多様性が活かることばの教育実践in福岡」

実践交流会「多様性が活かることばの教育実践in福岡」(主催:東京学芸大学)が本学で開催されました。日本で暮らす外国ルーツの子どもたちの支援に携わっている学校教員や日本語指導員、地域ボランティアの方たちが九州各県から集まり、お互いの実践を共有しました。本学からは、大学院生を中心に毎週開催している外国ルーツの子どもたちのための学習支援・日本語支援教室「つながるーむ」について紹介しました。



18 2024.11.09

認知症声掛け訓練

東部地域大学連携(本学、九州産業大学、福岡工業大学)では、福岡市東区の「認知症に優しいまちづくり事業」に協力しています。2024年度は、各大学で認知症の基礎知識を学ぶ講座を受講した学生たちが本学のキャンパスに集まり、香住丘校区の地域住民の方々と共に、実際に困っている認知症の方に声をかける練習を行う「声掛け訓練」というイベントを実施しました。学生たちは、認知症の方への適切な接し方を実践的に学びました。



19 2024.11.10

ランゲージ・カフェ10周年記念イベント
“はなむない”～言葉の花を咲かせよう～

ランゲージ・カフェ発足10周年を記念して、オンラインと対面のハイブリッドで、8時間にわたるイベントを開催しました。参加した在学生は、海外・国内各地で活躍している卒業生、会場に足を運んでくれた卒業生と熱い時間を過ごし、卒業生たちにとってのもよき再会の場となっていました。運営チーム発案のプログラムやブースでは、卒業生に加え教職員の協力もあり、講義とはまた一味違う、グローバルな空間が展開していました。



11 2024.10.05 / 10.09

学部・WJC交換留学生ウェルカムトリップ

2024年の秋学期より、海外協定校から国際文理学部に7名、WJCプログラムに22名の交換留学生を新たに受け入れました。それぞれの交換留学生を対象にウェルカムトリップを実施し、学部交換留学生は大分県の宇佐と別府を訪れ、WJCの交換留学生は同じく大分県の湯布院を訪問しました。JD-Mates(留学生をサポートする在学生)も参加し、この旅行を通じて、留学生達はお互いの親睦を深めることができ、良い形で福女大での留学生生活をスタートすることができました。



※WJC = The World of Japanese Contemporary Culture Program: 交換留学生受入特別プログラム

12 2024.10.10

講演会 Women and Politics in Indonesia: Progress and Challenges (インドネシアの女性と政治: 展開と挑戦)

インドネシア国家研究革新機構シニア研究員のクルニアワティ・ハストゥティ・デウィ氏を講師として招聘し、アジア新興国であるインドネシアにおける女性の地方政界への進出について、フィールドワークに基づく知見から講演をいただきました。市民団体の活動やクォーター制など顕著な取組がある一方で、高コストの選挙制度、女性への暴力、政治的「帝国(dynasty)」などの課題が示されました。活発な質問や議論もあり、女性の社会進出が課題である我が国の取組を考えるうえでも示唆に富む講演会となりました(すべて英語での実施)。なお、本講演会は本学リサーチコアプロジェクト「アジアにおける女性の社会進出とジェンダー平等」と本学女性リーダーシップセンターとの共催によるものです。



13 2024.10 - 12

「国際開発×グローバルリーダー」
3連続企画&APUとの交流

2024年度グローバルリーダー(GL) 演習履修生5名が、連続企画「国際開発×グローバルリーダー: 企業・市民社会・国際機関の視点から」及び立命館アジア太平洋大学 (APU) Center for Inclusive Leadership 篠原センター長ゼミ所属留学生との交流会企画運営など、意欲的に活動しました。アイスランドとクロアチアに留学中の履修生2名も遠隔で参画。活動を通じて成長を女性リーダーシップセンターHPでご覧いただけます。



14 2024.10.15

国立東華大学 表敬訪問

本学の協定校である国立東華大学(台湾)から、学長をはじめとする7名の教職員が来学し、本学の吉村利夫理事兼副学長(環境科学科教授)、食・健康学科 新開章司教授及び国際化推進センター職員と懇談しました。本学と国立東華大学は2018年に交流協定を締結し、これまでも学生の相互派遣や海外語学研修の実施等を通じて、交流を深めてきました。今回の会談では、今後の両校の教員間の研究交流の促進や学生交流の更なる活性化に向けての意見・情報交換が行われ、双方にとって有意義な時間となりました。



6 2024.09.14

食育ボランティアサークル「しょくぼねっと」による食育講座

本学の食育ボランティアサークル「しょくぼねっと」が香椎浜公民館の小学生向け事業「はまっこ塾」に参加する子どもたちを対象に食育講座を実施しました。魚の栄養や構造、海の環境問題などをテーマに、クイズや魚の模型を使った解体ショー、魚釣りゲームなどを通して、わかりやすく解説しました。参加した小学生たちは、最後まで楽しく、魚や海の環境問題について学びました。

7 2024.09.17

秋卒業式

秋卒業式を執り行いました。学部生4名、大学院生2名が出席し、晴れやかな顔で新たな門出を迎えました。向井剛学長から激励の言葉が贈られ、式典終了後にはそれぞれの指導教員と笑顔で写真撮影を行う様子が見られました。



8 2024.09.21

地域連携センター学生委員による
シニア世代向けスマホ活用講座

本学の地域連携事業の運営をサポートする地域連携センター学生委員4名が名島公民館でシニア世代向けスマホ活用講座を実施しました。本講座は、名島公民館からの依頼のもと実施したもので、内容の企画から当日の運営まで、全てを学生たちが担当しました。参加した学生たちは、スマホの基本操作やLINEの使用方法、「映える」写真の撮り方まで、地域住民の方々と交流を楽しみながら、丁寧にレクチャーしました。



9 2024.09.28 - 10.11

マレーシア保健省から客員研究員受入れ

健康な高齢化を推進すべくマレーシアでの政策立案に向けて、栄養を考慮した健康増進に関するさまざまな分野と高齢者向けの食糧支援プログラムに関する日本の取組について調査研究を行うことを目的とし、マレーシア保健省のAinan氏を客員研究員として2週間受け入れました。滞在中は、福岡県内の行政機関、訪問看護施設、フードバンクの取組等の視察、関係者との意見交換を精力的に行いました。



10 2024.10.03

ワンヘルスに関する講演会

ハワイ大学のジェリッサ・チン・チョー先生による「One Health in Hawai'i and Fukuoka」と題する講演に、学生・教職員あわせて65名が参加しました。学生も英語で質問するなど、参加者の関心は高く、幅広い視点で「健康」を捉える考え方であるワンヘルスについて、さらに理解を深める良い機会となりました。なお、2025年度から県内8大学によるワンヘルスに関連する講義が始まり、本学からも3科目提供予定です。



1 2024.07.22 / 07.29

ひらめき☆ときめきサイエンス

環境科学科の松尾亮太教授が近隣小学校を中心とした小学5、6年生を対象に講座「ナメクジは賢い! ~ナメクジの学習行動と脳のしくみ~」を実施しました。本事業は、日本学術振興会科研費の助成を受けて実施するもので、これまでに6回、隔年で実施しています。参加した小学生たちは、身近な生き物であるナメクジを使って優れた脳科学研究ができることを講義や行動実験、生理学実験により、楽しく学習しました。



2 2024.07.31 / 08.02 / 11.09

英語による3つのイベントの開催

言語教育センターでは英語による3つのイベントを開催しました。まず、ACEプログラム内の1年生によるポスタープレゼンテーションです。学生だけでなく教職員も参加しました。そして、当センター初の学生委員による企画「Star Festival」と「Flying a Kite Together」です。前者は笹に七夕飾りをし、また七夕に関するクイズも行いました。後者は、オリジナルの凧作りをしてグラウンドでその凧をあげました。参加者全員が笑顔で楽しみました。



3 2024.08.04

オープンキャンパス

約1,300名の方にご来校いただき、夏の大イベントとなったオープンキャンパス。学内をめぐるキャンパスツアー、疑問を解消できる個別相談会、寮の部屋を見学できる寮ツアー等を実施し、高校生からは「大学生生活の雰囲気を感じるこ



とができた」「教職員の方や先輩に直接聞くことができた」等の嬉しい声が寄せられました。今後もパンフレットでは分からない福岡女子大学の魅力をお伝えできるよう学生と教職員で企画していきます。

4 2024.08.05 - 08.18

CASEUFサマープログラム

本プログラムは、本学が2016年度に創設したASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡の枠組みで実施する国際教育プログラムです。2024年度は本学学生を含む8大学32名の学生が参加し、国や地域により異なる社会背景の多様性を認識する機会となりました。本学学生にとっては、海外留学への意欲を高める貴重な経験となります。前半は、3名の学内講師による法律・経済・食文化をテーマにした講義で現代日本社会への理解を深め、後半は、フィリピン大学よりKarl Ian Uy Cheng Chua教授をお招きし、映像作品を通して見る社会や文化等から共同体を考える講義を行いました。



5 2024.08.10 / 12.15

「福岡キャリア・カフェ」大交流会

福岡県の委託事業として2023年8月にオープンした「福岡キャリア・カフェ」は、福岡で働く女性が企業や職種の垣根を越えてロールモデルと交流し、自分らしいキャリアを見つける場として、多くの方に利用されています。現在、会員数は1,000名を超え、「気持ちが前向きになった」「新たな働き方のヒントを得た」などの声をいただいています。2024年8月と12月に開催した「大交流会」では計198名が参加し、キャリアと子育ての両立、起業、自分自身のブランディングなど、多彩なテーマで活発な交流が行われました。今後も新たな発見やつながりを提供できるよう準備中です。皆さまのご参加をお待ちしています!





25 2024.12.03

食品表示特別セミナー

一般社団法人食品表示検定協会と福岡県に本社のある一番食品株式会社より講師を招聘し、食品表示特別セミナーを開催しました。当日は、食・健康



学科の学生を中心に、教職員を含めた58名が参加し、熱心に聴講しました。食品表示の知識は、毎日の暮らしの中で役立つだけでなく、資格を取得することで、就職やその後のキャリアパスを考える上で大変有効であることを学ぶ機会となりました。

26 2024.05.25 - 12.07 27 10.11 - 12.20

社会人向けリカレント教育

女性の一生涯を通じたキャリアアップを支援する2つの研修を実施しました。問題発見能力を育み、解決に結びつける力を養う「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」では12月7日に11名、自分らしく働くために必要なマインドやスキルを身につける「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」では12月20日に10名が修了を迎えました。各研修の受講生達はそれぞれ学びの成果や未来に向けた抱負を堂々と披露し、新たな一歩を踏み出しました。今後のさらなる活躍を、心より応援しております！



28 2024.12.17

OED編集主幹による講演イベント “Words of Japanese origin in the Oxford English Dictionary”

OED(オックスフォード英語辞典)の編集主幹である、Danica Salazar氏による講演イベントを開催しました。日本語起源の言葉が辞書に載るまでのお話は大変興味深く、図書館ラーニング・コモンズを埋め尽くした参加者の多くは学生でしたが、通訳無しの講演を、それぞれの理解力なりに堪能した様子が事後アンケートにも表れていました。学生・教員からの質疑応答も深い内容で講師の方にとっても、印象に残る“福岡女子大学”となったようです。



学生でしたが、通訳無しの講演を、それぞれの理解力なりに堪能した様子が事後アンケートにも表れていました。学生・教員からの質疑応答も深い内容で講師の方にとっても、印象に残る“福岡女子大学”となったようです。

29 2025.01.11 - 01.12

国際会議JCREN2025

本学がホストとなり、第13回再生可能エネルギーとナノテクノロジーに関する合同会議(JCREN2025)をハイブリッド形式で開催しました。タイ、台湾、マレーシア、フィリピン、メキシコからの参加者を含む36名が参加し、基調講演2件・口頭発表14件・ポスター発表12件を行いました。本学からも、環境科学科の馬昌珍教授、山口容子助手が発表を行いました。2日目はテクニカルツアーとして、福岡市の3Rステーションと太宰府天満宮を訪問しました。



20 2024.11.11

第9回ろうそく能

本学では感性の教育に力を入れており、日本の伝統文化に触れる機会として今年で9回目となるろうそく能公演を実施しました。寮活動の一環として学部1年生が出席したほか、近隣の教育機関や自治協議会の方々が来場しました。能「殺生石」を鑑賞し、学生からは「迫力ある舞に圧倒された」等の感想が聞かれました。また、学生有志が司会進行やパンフレット・投影スライド制作、ロビーの演出を担い、本学ならではの公演となりました。



21 2024.11.17

女性と政治に関する講演会に本学学生が登場

福岡市のアミカスで行われた「政治を変えるのは私たち」(主催「地域で男女共同参画を！〜拡げようネットワーク」実行委員会)に国際教養学科4年の進藤愛華さんが登壇しました。講師で、若い世代の政治参画を推進している能條桃子さん(NO YOUTH NO JAPAN代表理事)の対談者として、進藤さんは「若者は政治についてどう思っている?」というテーマで意見発表を行いました。



22 2024.11.22

ソウル女子大学との合同研究会

本学リサーチコアプロジェクト「アジアにおける女性リーダーに関する学際的研究」のメンバー(山根健至准教授、木村貴教授、宮崎聖子教授、小西鉄准教授)と女性リーダーシップセンターから徐阿貴教授の5名で協定校のソウル女子大学を訪問し、女性学・社会教育学の研究者5名とともに、それぞれの研究発表後、各大学が試みている女子大「特性化」についても意見交換をすることができました。共通の課題や参考となる取組が多々あり、大変有意義な場となりました。

23 2024.11.26

福女大生のための業界研究セミナー

様々な業界から11社にご協力いただき、業界研究セミナーを実施しました。企業毎にブースを設置し、人事担当者や企業で働く本学OGからお話を伺いました。当日は、学部1・2年生有志による企業インタビューも実施し、普段聞く事が難しいOGの就活体験談や、大学時代の話などお聞きしました。低学年の学生が、自身の学生生活やその後のキャリアを考える良い機会となったようです。



24 2024.11.28

イルミネーション点灯式

キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層交流を深めるため、イルミネーション点灯式を実施しました。学内外から大勢の人が集まり、学生や地域の方々のステージ発表のあと、カウントダウンに合わせてイルミネーションを点灯し、大歓声とともにキャンパスが桜色のイルミネーションに彩られました。



学生代表として挨拶した国際教養学科1年のタン・ウェイさんは「この光が私たちの未来を明るく照らしてくれることを願っています。」と思いを語りました。

日本歯科審美学会 優秀研究論文賞を受賞

2024年12月に黒木まどかさん(大学院博士後期課程修了生)、江頭莉緒さん(環境科学科在籍時の研究)、福岡看護大学 青木久恵教授、環境科学科 庄山茂子教授の共著論文Harmony between Tooth and Skin Colors -Based on the Impressions of Male Model Faces among Young Males and Females-(Japanese Journal of Dental Esthetics Vol. 36 No.2に掲載)が優秀研究論文賞を受賞しました。男性モデル顔の肌の色に対し、汎用性の高い歯の色を明らかにすることを目的とした研究です。歯や口元の美しさに焦点を当てた歯科治療への貢献が期待されます。



ハングルスピーチコンテスト「優秀賞」受賞

九州国際大学にて開催された「第12回KIUハングルスピーチコンテスト」にて国際教養学科3年の木村愛菜さんが「優秀賞」を受賞しました。タイトルは「国籍を超えて見えるもの」。1年前に参加したハワイでのプログラム(アメリカ大使館主催)において体験した「国籍」「アイデンティティ」に関する「気づき」と、2025年3月からの韓国留学への決意などをしっかりと自分の言葉で言語化し、韓国語能力のみならず内容についても大変高い評価を受けました。



「ふくおか農林漁業応援団体」県知事表彰受賞

10月26日に福岡大名ガーデンシティ・パークで開催された「食育・地産地消月間キックオフイベント」において、福岡県の農林水産業の振興や地産地消に貢献した団体として、本学が「ふくおか農林漁業応援団体表彰」を受賞しました。学生食育ボランティアサークル「しょくぼねっと」の活動や企業・自治体等と連携した「食品ロス削減レシピ開発」などの活動が評価されたもので、表彰式では、服部福岡県知事から表彰状が授与されました。



人間—生活環境系学会 論文賞受賞

2024年12月に小松美和子さん(大学院博士後期課程在籍時の研究)、大塚玲奈さん(環境科学科在籍時の研究)、環境科学科 庄山茂子教授の共著論文「交通事故防止のための反射材の検討 -若齢者群と擬似高齢者群の視認性評価の比較-」(「人間と生活環境」29巻2号に掲載)が論文賞を受賞しました。夜間に5色の反射材を異なる位置に着用した歩行者を距離100mまで10m間隔で撮影した画像の反射材の視認性を評価・分析し、交通事故防止策を提言した研究が評価されました。



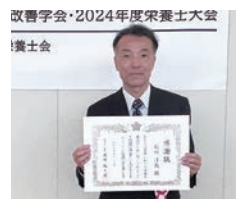
2024 SFTI-Fukuoka International Conference において最優秀賞を受賞

2024年7月に開催された国際学会において、小松美和子さん(大学院博士後期課程修了生)、中西真美子さん(大学院博士後期課程在籍)、福岡看護大学 青木久恵教授、環境科学科 庄山茂子教授の共同研究Nursing Attire Worn by Hospitalized Postpartum Mothers: Perspectives of Midwives and Postpartum Mothersがポスター発表部門において最優秀賞を受賞しました。乳房ケアと授乳の観点から望ましい授乳服の要素を明らかにした研究が評価されました。



「令和6年度 栄養関係功労者表彰」等受賞

食・健康学科の石川洋哉教授が、長年にわたる栄養士・管理栄養士養成への多大な貢献が認められ、「令和6年度栄養関係功労者表彰(福岡県)」及び「令和6年度 栄養士・管理栄養士養成施設の教員に対する会長顕彰(一般社団法人全国栄養士養成施設協会)」を受賞しました。



退職者メッセージ



国際教養学科
教授

チョウドリ マハブブル アロム

〔感謝の気持ちをこめて〕

在籍期間:2014.4.1～2025.3.31

2014年から10年間、国際文理学部の教授としてお世話になりました。2011年の大学改編を経て、2015年大学院に「人文社会科学部」「人間環境科学研究科」が設置され大学院の前期・後期課程の授業や研究指導も担当しました。この間、多くの同僚にめぐまれ、また教え甲斐のある意欲的な学生や院生たちに囲まれて、身に余る幸福な日々を過ごすことができました。同僚として温かく接してくれた教員の皆様、お世話になった事務の方々に感謝の気持ちを捧げたいと思います。学生の皆様におかれましては本学での経験や学びがその後の人生の糧としていつまでも残っていくものであってほしいと思います。2023年に創立100周年を迎えました本学のさらなる発展を願っています。



国際教養学科
教授

望月 俊孝

〔長らく大変お世話になりました〕

在籍期間:1987.4.1～2025.3.31

この38年間にはいいこともそうでないことも色々ありましたが、過ぎてしまえばあれもこれもいい思い出です。中でも授業に哲学対話を取り入れてからは毎回がとても楽しく充実しましたし、念願の学部改組後の十数年はついに卒論も受け持てて、自らの主題に本気で取り組む精鋭たちと生きた哲学ができました。この幸せな機会を与えてくれた大学に心から感謝します。そして皆様のご多幸を切にお祈りします。



環境科学科
教授

辻 信一

〔光陰矢の如し〕

在籍期間:2017.4.1～2025.3.31

着任したのが昨日のことに思えます。あれから、8年経ったのかと思うと感慨深いです。世の中では、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、本学の100周年とさまざまな出来事がありました。その間に幾人かの卒業生を見送り、そして、今、自分も見送られる立場となりました。本学の美しい桜並木を思い浮かべつつ、お世話になった皆様のますますのご健勝をお祈りしております。



環境科学科
准教授

若竹 雅宏

〔お世話になりました〕

在籍期間:2018.4.1～2025.3.31

福岡は恩師や義母の故郷であり、私も前職最後の設計監理を薬院大通で行うこととなり、何か縁を感じる福岡女子大学への着任でした。着任後は、教員経験の無い私が仕事をしやすいように、何よりも皆様からのご支援のお陰で、楽しい時間を過ごすことができました。今後もここで学んだことを励みに、一層の努力をしたいと思っています。福岡女子大学と皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

〔教員〕

退職	国際教養学科	教授	チョウドリ マハブブル アロム	2025.3.31
		教授	望月 俊孝	
	環境科学科	教授	辻 信一	
		准教授	若竹 雅宏	
	食・健康学科	助教	田中 貴絵	
		助教	森田 理恵子	
		助手	大橋 佐登子	

〔職員（異動含）〕

退職	経営管理センター	センター長	黒岩 京子	2025.3.31
	地域連携センター	主任	白石 望	

(2024.9.1～2025.3.31)

人事消息

OPEN THE DOOR



扉の先に未来がある

社会で羽ばたく
なでしこたち

#11



日鉄環境エネルギーソリューション株式会社

高山 紗季さん

2015年度 国際文理学部 環境科学科 卒業

2017年度 人間環境科学研究科 博士前期課程 環境自然科学領域 修了

「環境問題に携わる仕事に技術職として就きたい」という強い希望があった私は「理系だけではなく、語学と幅広い知識・視野を身につけたい」と考え、福岡女子大学を志しました。大学を知ったきっかけは叔母の家の近くだからという理由でしたが、ホームページなどで情報収集をするうちに、次世代を生きるための幅広い教育方針に魅かれ受験を希望しました。ここで一生の恩師に出会い、リサイクルの研究を大学院までやり遂げることが

きたので、あの時の決意に感謝しています。3年生の時に応募した紙おむつリサイクル研究のアルバイトは、その後の進路を決めるきっかけになりました。環境問題がテーマとなっており、希望する研究室の募集でもあったので1番に手を挙げました。そこから大学院の論文まで4年間研究に取り組みました。最初は作業をこなすだけで精一杯でしたが、依頼主の企業へのインターンシップや学会での発表などを通して、自分で目的を意識して研究を進められるようになりました。企業、教授と関わる機会が多い中で、社会的視野を持つって話す力、自分で道筋を考える姿勢を身

社会人になっても、福岡女子大学については入学前の評判と同様に良いイメージを多く耳にします。特に「勉学にもしっかりと取り組み自分を持っている人が多い」と聞きます。在学中、勉強も遊びも楽しんでいる人がたくさん周りにいたので、その印象が引き継がれており嬉しく思います。

現在、世界的問題であるごみ処理の仕事をしています。安定してごみを処理するよう作業条件を考え、その設備保全・補修をし、CO₂削減に向けた新技術の進行に取り組んでいます。ごみは必ず発生する世代を越える問題ですので、未来に繋がる仕事だと考えています。

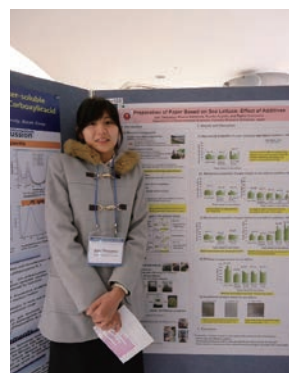
女性技術者として試行錯誤の日々

福女大生へのメッセージ

気になることはほとんどやってみてください。「百聞は一見に如かず」と言うように、経験に勝るものはありません。経験は無駄にならず、思いがけない時に自分を助けてくれます。学生時代だからこそ、満足せず食欲にチャレンジしてってください。



(現在)会社のメンバーでストレス発散



(学生時代)韓国での学会